

今週の為替相場見通し(2017年8月14日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.72 ~ 110.92	109.17	107.50 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.1689 ~ 1.1848	1.1818	1.1700 ~ 1.1950
(1ユーロ=)	(円)		128.05 ~ 130.86	129.07	127.00 ~ 131.00
英ポンド	(ドル)		1.2939 ~ 1.3059	1.3012	1.2950 ~ 1.3150
(1英ポンド=)	(円)	*	141.26 ~ 144.72	142.09	140.50 ~ 143.50
豪ドル	(ドル)		0.7839 ~ 0.7949	0.7895	0.7700 ~ 0.8000
(1豪ドル=)	(円)	*	85.45 ~ 88.02	86.20	84.00 ~ 87.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1)今週の予想レンジ: 107.50 ~ 111.00 円

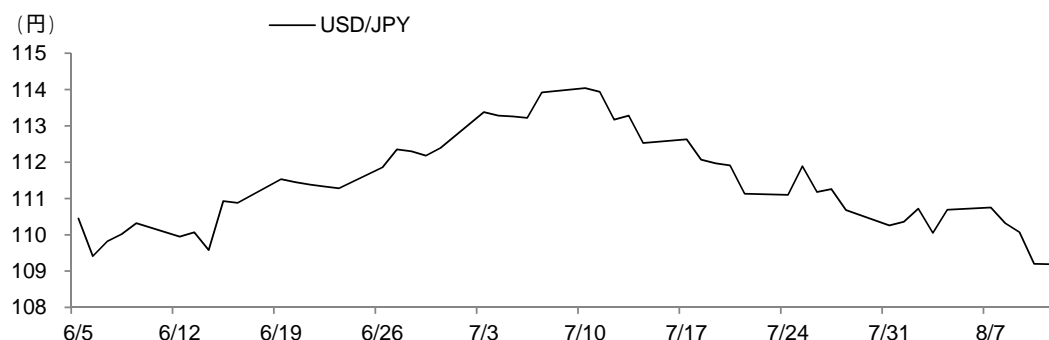
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場は軟調な展開。週初7日に110円台後半でオープンしたドル/円は、4日(金)の良好な米7月雇用統計の結果を受けたドル買いの動きに支えられ一時週高値となる110.92円をつけた。8日は日経平均株価が2万円を割り込む展開に110円台前半まで値を下げたが、米6月JOLT求人件数が予想以上に増加すると110円台後半まで反発。しかし、北朝鮮が弾道ミサイルに搭載可能な小型核弾頭の製造に成功したとの報道や、トランプ米大統領の北朝鮮を強くけん制する発言を受け、リスク回避の円買いが強まり再び110円台前半まで反落。9日もリスク回避の円買いが強まり110円を割り込んだ。さらに、パリ郊外においてフランス軍当局者に乗用車が突っ込む事件が発生し、テロへの警戒感が強まり欧州株が軒並み値を下げると109円台半ばまで下落。しかし、ティラーソン米務長官が北朝鮮との緊張を抑制する発言をすると、ショートカバーから110円近辺まで反発。10日は再びリスクオフムードが強まり109円台半ばまで値を下げ、さらに弱い米7月卸売物価指数(PPI)の結果を受けて109円台前半まで続落。11日は東京市場が祝日で休場となる中、北朝鮮情勢への警戒を背景にアジア株が全般的に下落する動きに108円台後半まで値を下げ、米7月消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回ると一時週安値となる108.74円をつけた。ロシアのラブロフ外相が北朝鮮を巡る緊張の緩和に向けロシアと中国による共同計画があるとの発言を受け109円台半ばまで値を上げる局面も見られたが、その後は伸び悩み109円台前半で越過した。

今週のドル/円相場は上値の重い推移を予想する。先週は北朝鮮情勢の緊迫化を受けてリスク回避の動きが強まりドル/円は大きく下落。早期解決の目途は立っておらず、軍事衝突のリスクも強く意識されている状況下、引き続き世界的なリスクオフムードが継続することとなりそう。北朝鮮によるさらなる挑発行為があった場合には一段と水準を下げる局面も想定しておきたい。また、米国で先週発表された米7月PPI、7月CPIは共に冴えない結果となっており、足元で高まっているインフレ鈍化懸念を払しょくさせる内容とはならなかった。今週は15日(火)の米7月小売売上高、16日(水)の7月FOMC議事要旨公表に注目が集まるものの、インフレ懸念の後退につながる可能性は低いと考えられることや、9月FOMCにおけるバランスシート縮小の発表は相応に織り込まれていることを勘案すると、積極的なドル買いをもたらす材料とはなりづらいだろう。また、夏季休暇で流動性が乏しくなる中、ニュースヘッドラインを受けて値が飛ぶ可能性には警戒しておきたい。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/7~8/11)の値動き: 安値 108.72 円 高値 110.92 円 終値 109.17 円



お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上